

令和4年度 中大規模木造普及シンポジウム 事例報告会

サステナブル建築物等先導事業（木造先導型） 事業概要

1 プロジェクト名	(仮称)兜町85プロジェクト KITOKI		8 建物用途・規模	軒高: 34.28m、高さ: 34.47m 階数:地上 10階、地下 0階 (うち補助対象部分) 階
2 提案者 (=建築主)	氏名	平和不動産株式会社 (担当者:開発推進部 伊勢谷俊光)	9 建築物の構造	<input type="checkbox"/> 軸組工法 <input type="checkbox"/> 枠組壁工法 <input type="checkbox"/> CLTパネル工法 <input checked="" type="checkbox"/> その他の工法(木・鉄骨混構造)
3 建設地	東京都中央区日本橋兜町		10 建築物の 防火性能	(建設地の地域区分) <input type="checkbox"/> 防火地域 <input checked="" type="checkbox"/> 準防火地域 <input type="checkbox"/> 22条区域 <input type="checkbox"/> その他地域 (地域区分や建物用途・規模等により必要となる建築物の防火性能等) <input checked="" type="checkbox"/> 耐火建築物 <input type="checkbox"/> 準耐火建築物(60分) <input type="checkbox"/> 準耐火建築物(45分) <input type="checkbox"/> その他()
4 発表者	会社・所属	株式会社ADX		
	氏名	安齋好太郎		
5 採択年度、 採択日	令和2年度採択			
6 竣工年度、 竣工日	令和4年度竣工、竣工日:令和4年4月			
7 設計者・施工者 ・技術の検証者	設計者:	株式会社ADX (安齋好太郎、松下慎太郎)		
	施工者:	株式会社ADX (高橋学)		
	技術の検証者:			
8 建物用途・規模	<input checked="" type="checkbox"/> 事務所 <input checked="" type="checkbox"/> 店舗 <input type="checkbox"/> 共同住宅 <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 幼稚園 <input type="checkbox"/> 保育所 <input type="checkbox"/> 体育館 (武道場) <input type="checkbox"/> 集会場 <input type="checkbox"/> 宿泊施設 <input type="checkbox"/> 文化施設 <input type="checkbox"/> 病院 <input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 特別養護老人ホーム <input type="checkbox"/> その他の福祉施設 <input type="checkbox"/> その他()		11 施工時の課題・工夫点について(※簡潔に記載ください)	構造性能を担保する3層飛ばしの鉄骨鉄筋コンクリートメガストラクチャーの中に木造を入れ込むことで建物全体を軽量化し、地震力や基礎等への負担を軽減できる。また木造部は増改築も容易で将来的なプラン変更も実施しやすく、多様性を兼ねた合理的な構造になっている。エントランス部分を含む1階から3階部分の梁には、秋田県産の栗の木を丸太のまま使用。無機質なイメージの強い都心の金融街に、自然を感じられる温かみのある空間を生み出した。
	敷地面積:	142.16㎡	12 木造化についての施主からの評価(※簡潔に記載ください)	内装にも木を多用することでやすらぎのある空間を実現し、そこで働く人々の快適性も向上している。
	建築面積:	106.94㎡		
	延べ面積:	738.75㎡		
	(うち補助対象部分の面積:)			



都市高層建築における木材活用の可能性を拓く
KITOKI（兜町85プロジェクト）
事例紹介

January 2023



発表者

株式会社ADX CEO 安齋好太郎 Kotaro Anzai

1977年福島県二本松市にて、祖父の代から続く安齋建設工業の3代目として生まれる。自然と共生するサステナブルな建築を目指し、2006年にADXを創業。林業や森づくりといった材木の循環まで視野に含める建築設計を専門とし、木の新しい可能性を追求したダイナミックな建築を手がけるほか、Wood Creatorとして国内外の大学や企業で講演活動を行う。登山をライフワークとし、地元・安達太良山がホームマウンテン。

会社概要

会社名 株式会社ADX
代表取締役 安齋 好太郎
設立年 1986年10月9日



ADXは、本社を構える福島県にある安達太良山（ADATARA-YAMA）の略称。季節を通して感じられる自然美を持ち、人々に対して不変的な価値を提供したいという願いから、ADXの名前の由来としています。

事業領域

- ・ 森林の資源評価調査「森のカルテ」
- ・ 森林の開発コンサルティング
- ・ 商業施設、公園、公共施設などの企画・設計・管理
- ・ 商業施設、まちづくりなどのコンサルティング

所在地

<Head office>

〒969-1404 福島県二本松市油井字松葉山6

Tel 0243-22-1298 / Fax 0243-22-6116

<Tokyo office>

〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町14-7 SOIL Nihonbashi 4F

Company PROFILE



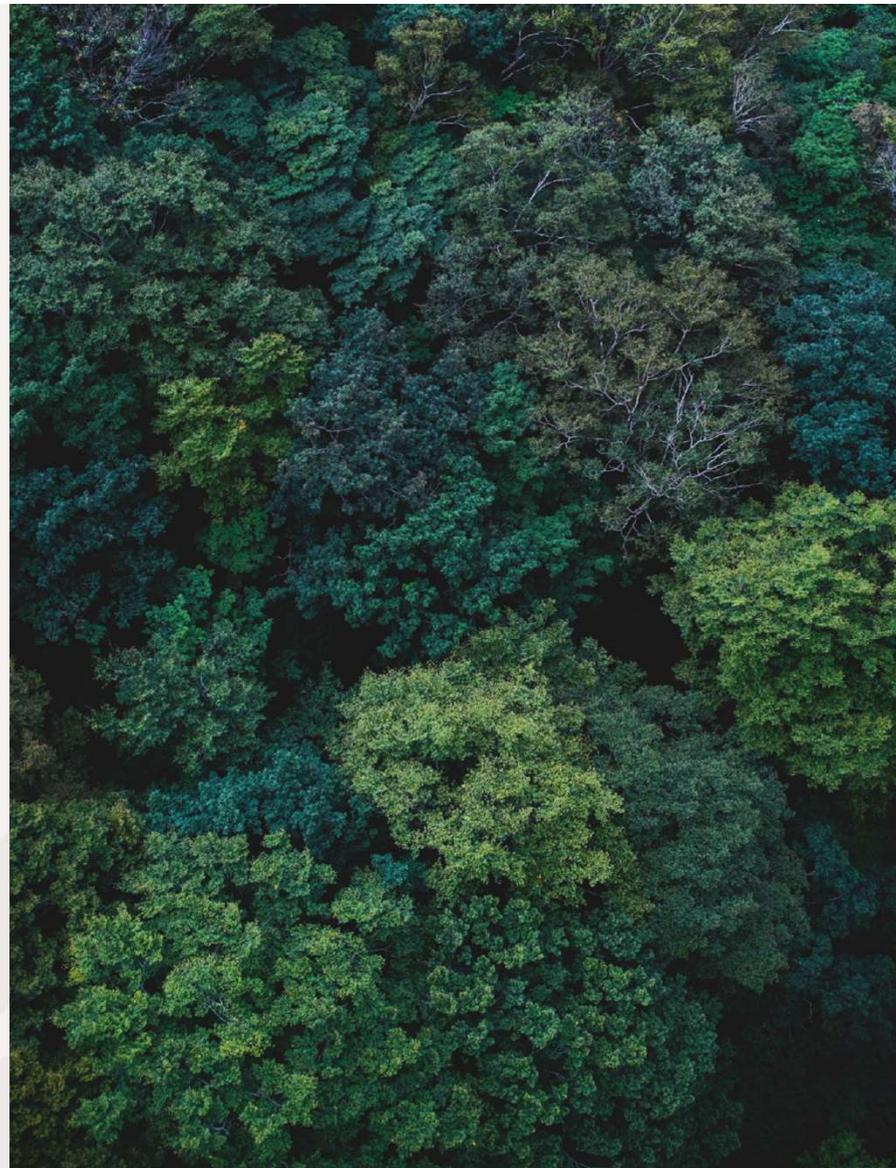
Declaration | 宣言

森と生きる。

ADXの建築は、いわば森との持続可能な相互作用を持った装置である。吹く風を阻まず。流れる川を堰き止めず。鎮座する岩石を破壊せず。動植物を踏みにじらず。土壤に適した素性の確かな木を使い、自らの手で物をつくる。伐倒した山には新たな木々を植え、バランスよく森が循環するサイクルを促す。

私たちにとってこの仕組みこそが建築の土台であり、建造物の完成はひとつの通過点に過ぎない。木が育ってきた数十年間から連なる時間軸上に、設計、施工、運用、さらには修繕や解体までも含む、未来のプロットを打ち込んでいく。私たちの設計とは、つまり人と森が共存する時間の再構築であり、意匠が先行することはない。

常に自然と建築との調和を優先しながら、人々が森で呼吸する喜びを、地球の美しさを感じるための場所をつくる。人と森のあいだに、在るべきものを。それを実現するために、私たちはあらゆる前例を疑う。最新のテクノロジーを取り入れ、ときに自ら発明する。すべては、母なる森と生きることを決めた、私たちADXの終わらない挑戦である。



Keyword | ADXを紐解くキーワード

Maximize the value of Wood

木の価値を高めること

木材として使った後も、植林すれば再生産することができる。コンクリートや鉄に比べて製造する時のエネルギー量が少なくCO2の発生量が抑えられる。あらゆる建築材料の中で、木はもっともサステナブルな存在でしょう。しかし、国産材はまだまだ過小評価されているのが現実。林業は衰退し、荒れた山は珍しくありません。でも、だからこそADXは木にこだわります。私たちの建築を通して木への評価が高まり、需要が生まれたら、森を守るきっかけになるはず。森再生のムーブメントは、私たちが木造建築を通して実現したいことのひとつです。



Circular and sustainable architecture

循環可能な仕組みをつくる

ADXにとって建築とは、建物を建てることだけを意味しません。設計から施工、移動や解体に至るすべてのライフサイクルをデザインし、周辺環境と調和し共存していく計画を立てること。可能な限り周囲の生態系への負荷を抑えて施工すること。建物の寿命が来たとき、それぞれの素材に再生の選択枝を用意すること。私たちがつくりあげるのは循環可能な仕組みそのものであり、建築物はあくまでその象徴です。



Keyword | ADXを紐解くキーワード

Leverage new technology

手段としてのテクノロジー

私たちは最新のテクノロジーも貪欲に取り込みます。コンピューテーションによるデザインやロボットを使った施工、ときに新しい建設機械を発案することもあります。しかし、テクノロジーの追求がADXの目的になることはありません。どれほど便利な最新技術であろうと、あくまで手段であり、数あるアプローチのひとつ。優先順位を忘れず、好奇心と探究心を持って向き合う。それが私たちのテクノロジーに対するスタンスです。



Teamwork, diversity and trust

進化する共同体へ

巨大で頑丈な生物も、外部環境の変化であっけなく絶滅することがあります。それは組織も同様でしょう。単細胞のように、ただひとつの機能に特化すれば脆くなる。私たちは長く事業を営むため、なるべく異なった専門性の受け入れを心がけています。一人ひとりがユニークな個性を発揮し、各々の役割を担いながら、同じ方向へと進んでいく。単細胞から多細胞へ。柔軟さとバランスを備え、変化への対応力を持ち合わせた共同体こそが、ADXが目指す組織です。



Keyword | ADXを紐解くキーワード

True beauty of nature

答えは自然の中に

私たちは、ときに数字上の合理性より感情や本能に従います。仲間の表情、現場の景色、人間の熱量。その選択の背景には、安達太良山をルーツに持ち、より自然体であろうとする私たちの風土にあるのかもしれない。ADXのメンバーは好んで現場に足を運び、その土地の木に触れ、山を登り、地球と対話しようとします。自然の中で生まれたインスピレーションこそが、私たちの行き先を決めます。



Mountain Lodge

山小屋を目指す

私たちにとって、山小屋は特別な存在です。限られた資源ゆえに、必然的にその場にあるエネルギーを生かすことを前提とした設計。厳しい気候条件に耐え得る耐久性や、資材運搬・施工の工夫。それでいて、疲れた登山者を癒してくれる快適性と、眼下に広がる素晴らしい景色との調和を求められます。山小屋はADXにおける挑戦のメタファー。私たちが持つ知識や経験、技術をすべて注ぎ込んで、山小屋をつくりたい。世界中に山小屋を建てることは、私たちの密かな野望です。



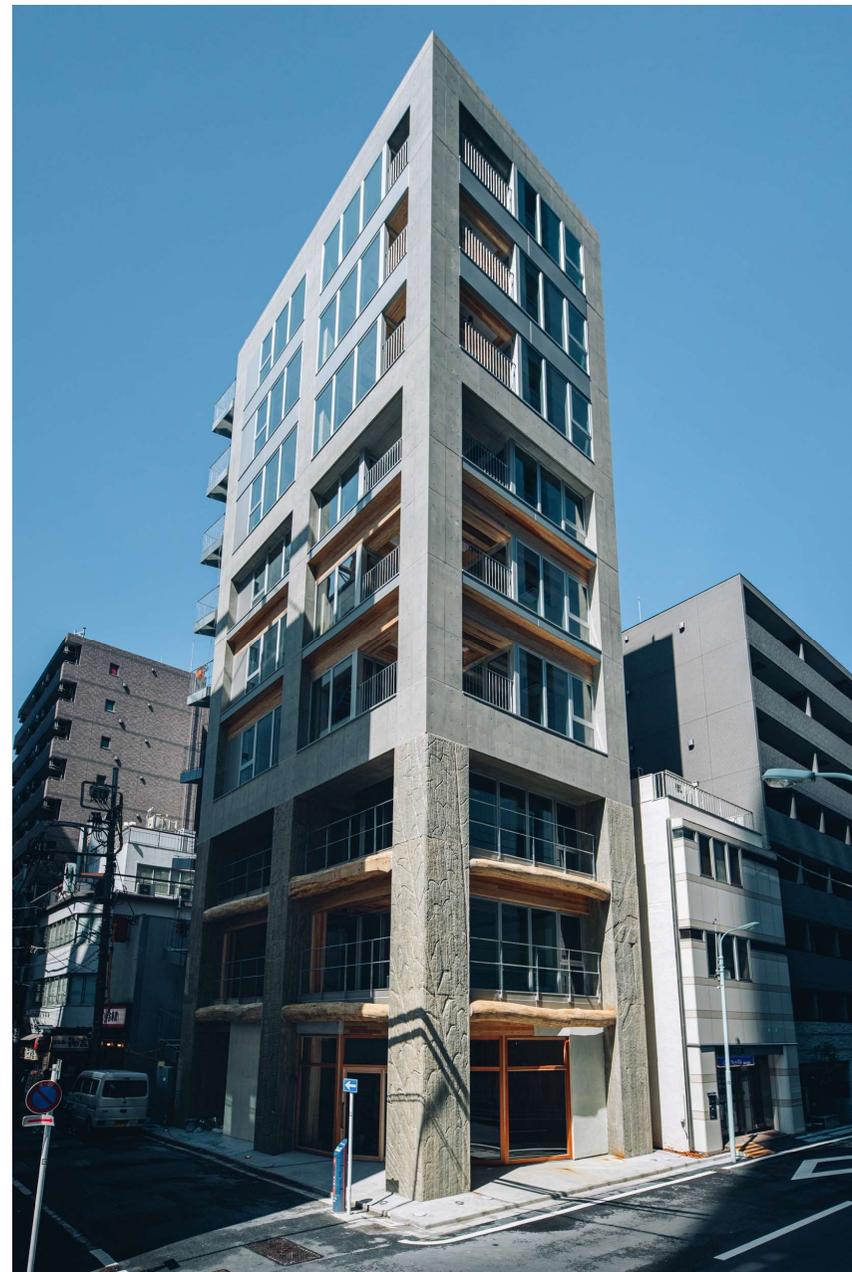
事例のご紹介

プロジェクト名：KITOKI

都市高層建築における 木材活用の可能性を拓く

SRC造メガストラクチャーと木造建築を組み合わせた
日本初の木造ハイブリット

国土交通省「令和2年度サステナブル建築物等先導事業（木造先導型）採択事業」
◇ウッドデザイン賞2022「奨励賞 審査委員長賞」受賞
◇令和4年度木材利用優良施設等コンクール「優秀賞」受賞



都市における木材活用の可能性を拓く「KITOKI（キトキ）」

日本橋兜町に建設したKITOKIは、
SRC造による3層飛ばしのメガストラクチャーの内側に
木造建築を組み合わせた
10階建ての店舗兼オフィス。

コンクリートの持つ100年もの耐久性と、
木造建築の軽やかさのコンビネーションにより、
都市の木質化に新しい可能性を拓きます。

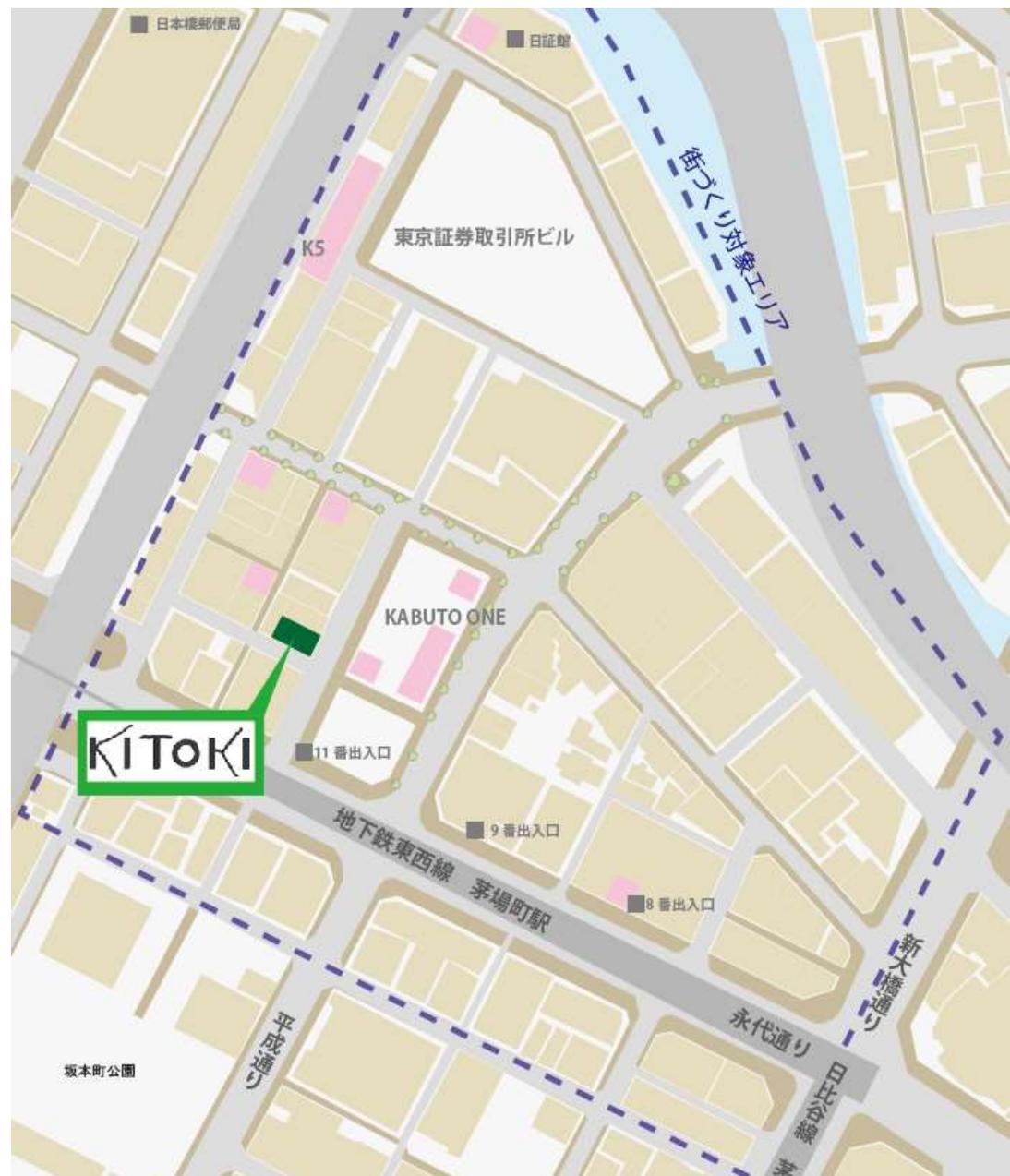
Partner | 事業主体

・街づくりタグライン

起点であり、
輝点となる。

日本橋兜町・茅場町再活性化プロジェクト

 平和不動産株式会社



所在地：東京都中央区日本橋兜町8番5号

交通：東京メトロ東西線「茅場町駅」徒歩1分

仕様：最高高さ約34.5m、延べ面積約790平米

用途：店舗・事務所

規模：地上10階

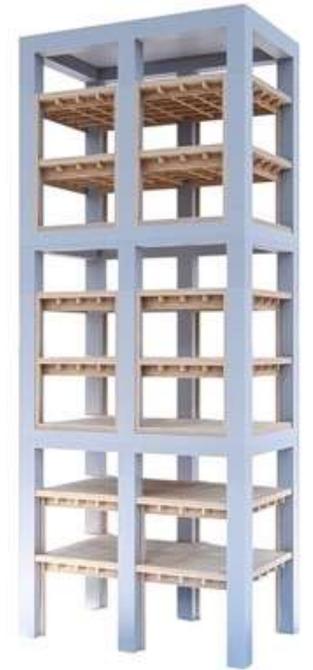
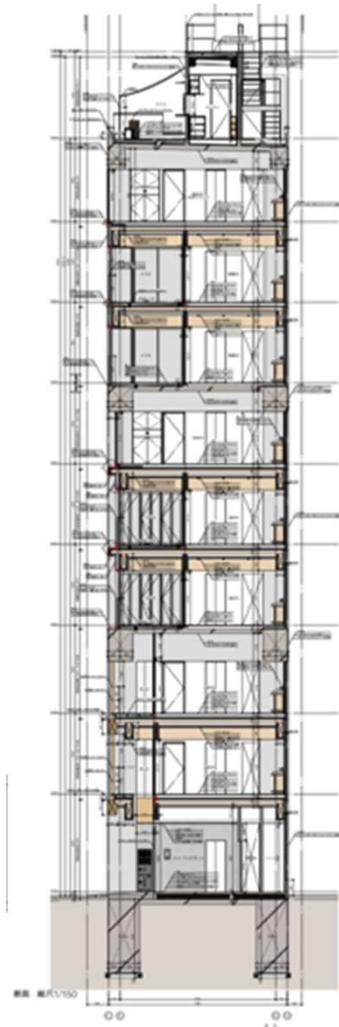
工期：2020年12月～2022年3月

The logo for 'KITOKI' is mounted on a wall with a coarse, sand-like texture. The letters are dark grey and have a three-dimensional, sculptural quality. The 'K's and 'I's are formed by thick, dark grey rods. The 'O' is a solid, dark grey ring. The 'T' and 'K' are also formed by thick, dark grey rods. The logo is positioned to the right of the project information text.

A wide-angle photograph of a spacious, empty interior room. The ceiling and floor are finished with light-colored wood paneling. A large, rectangular air conditioning unit is recessed into the ceiling. To the right, there are large windows with white frames and sheer curtains, offering a view of an urban environment. A concrete pillar is visible on the left side of the room. The overall atmosphere is bright and modern.

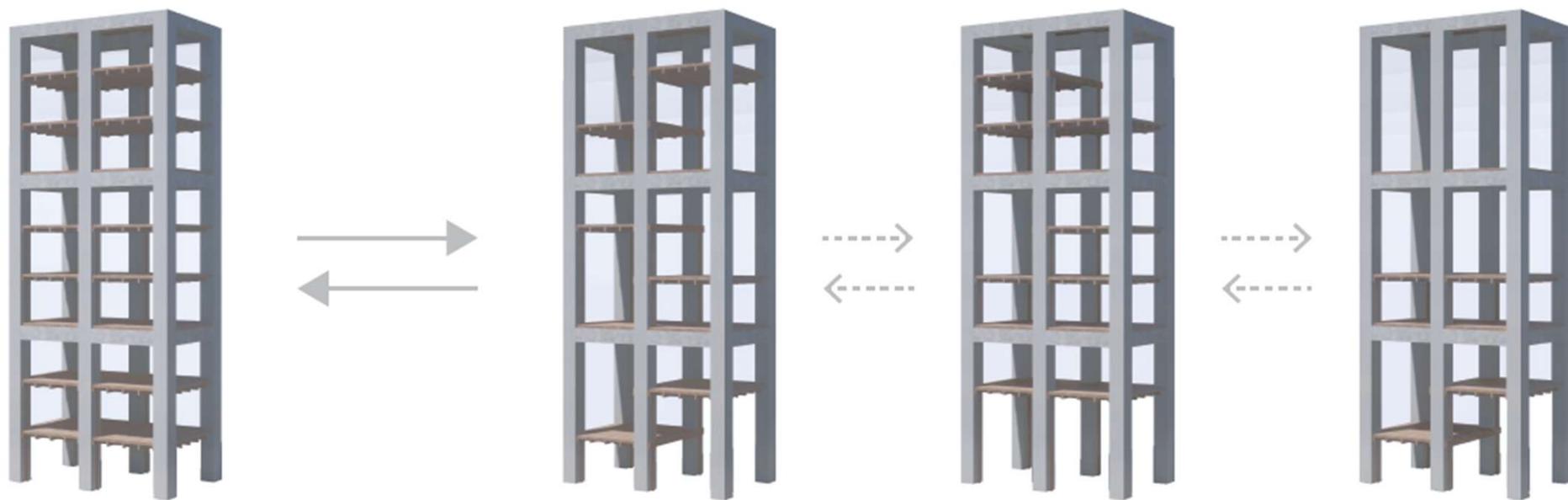
高層木造建築の新たな形を示す発信拠点
SRCメガストラクチャーと木造によるハイブリット構造

Structure | 木造ハイブリット構造

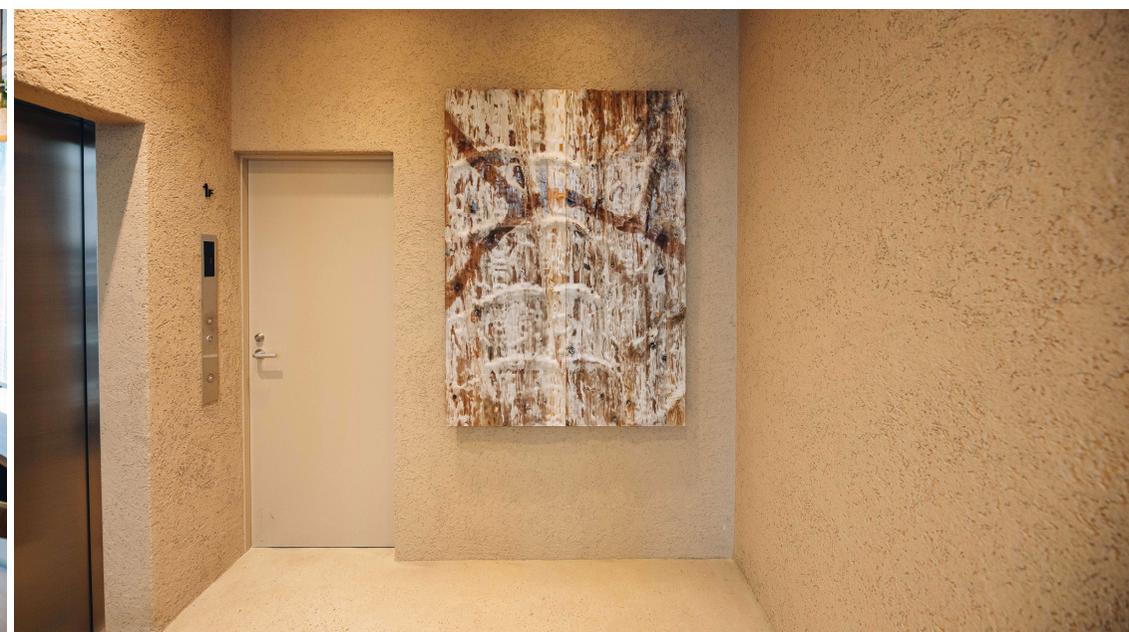
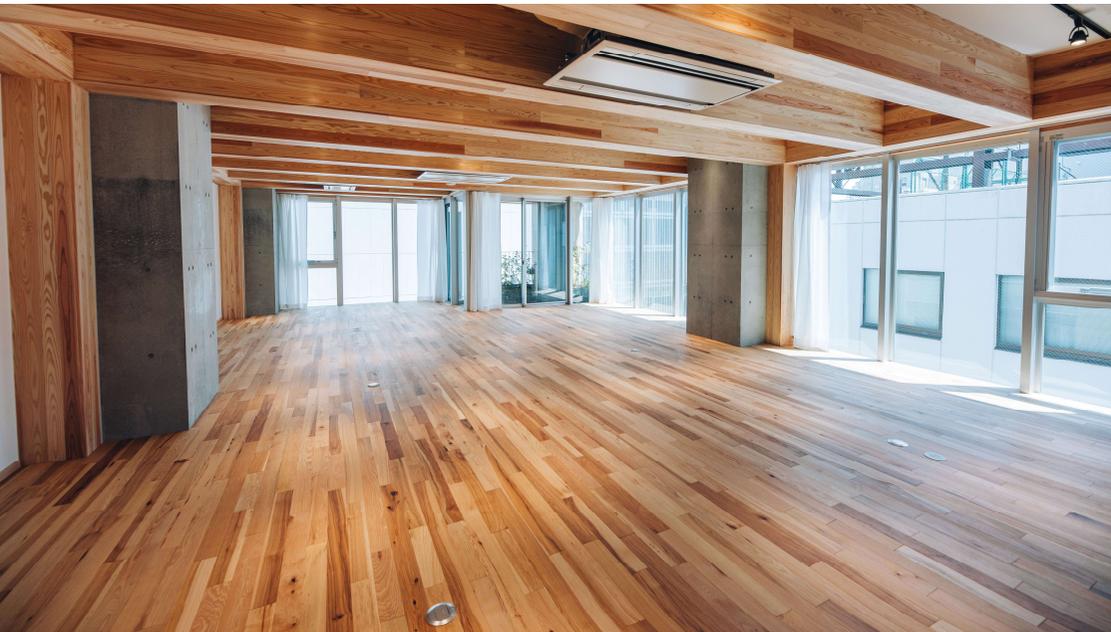


木造建築部分は土台の上に自立しており
構造的負担はない

Structure | 木造ハイブリット構造



木造建築部分を減・増築させることで、
将来的に様々な形態変化が可能





まちに開かれた機能を持つオフィス

1Fにはどぶろく醸造所バーがオープン



東証上場の森の木材でしつらえたテラス空間



ライフサイクルアセスメント（LCA）の試算

木造を組み合わせることで、RC造と比べて約27%削減が実現

建設で排出される二酸化炭素量

RC造の建設の場合

約826t eq.

約27%削減

KITOKI（木造ハイブリット）の場合

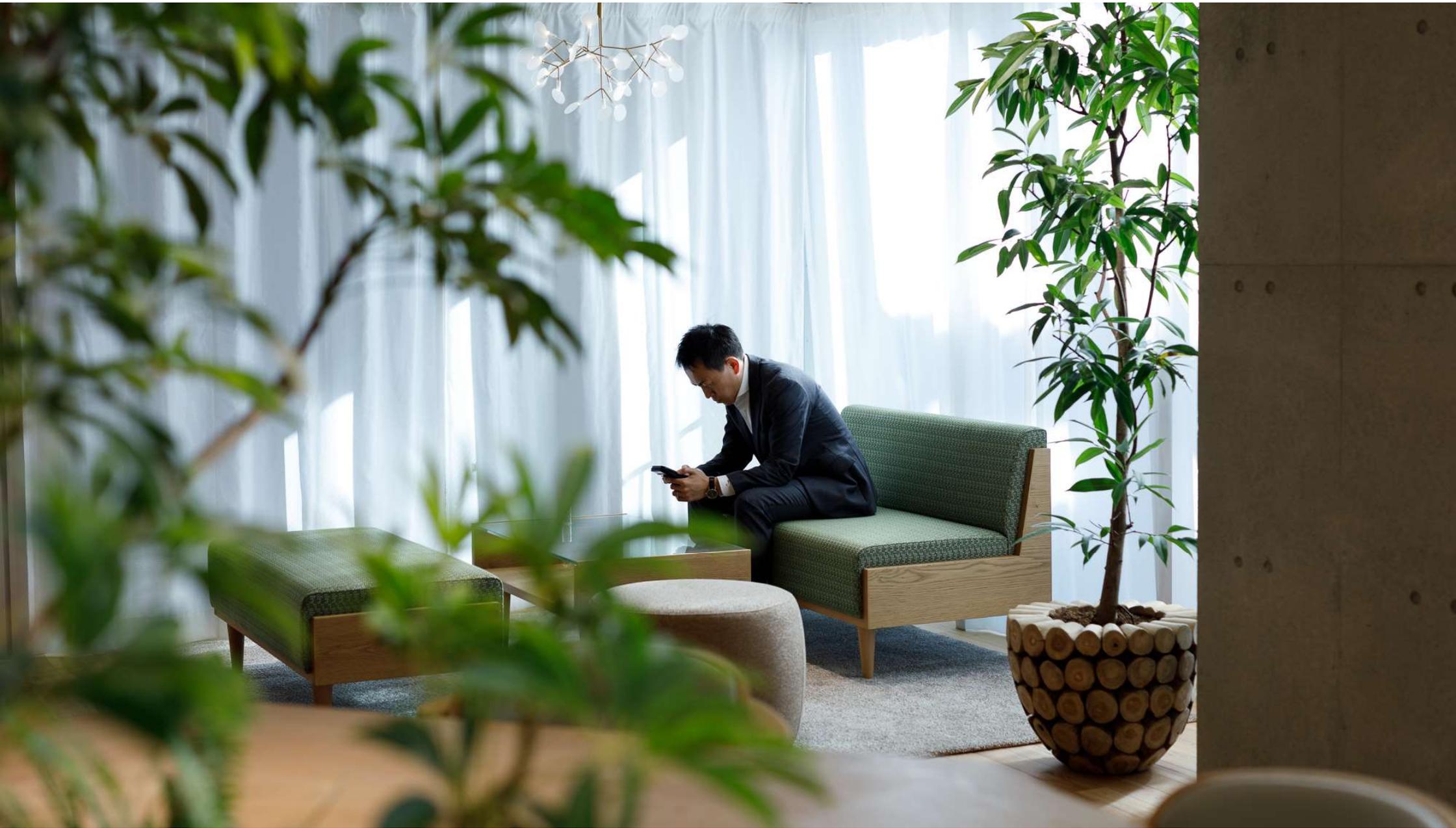
約601t eq.

* 木造部分の二酸化炭素固定分も加味

henrik•innovation
green business consultancy







A photograph of a dense forest with tall, slender trees and vibrant green foliage. Sunlight streams through the canopy, creating a bright and airy atmosphere. The text "森と生きる。" is centered in the image.

森と生きる。

FIN

<https://adx.jp>